

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
科学的根拠に基づくがん情報の提供及び均てん化に向けた体制整備に資する研究（23EA1026）  
（分担研究報告書）

がん診断時等にごん診療施設で効果的に情報提供する方策に関する検討  
——山形県内および自施設における取り組みから——

研究分担者 鈴木克典 山形県立中央病院 消化器内科 院長  
研究協力者 船山香織 山形県立中央病院 看護部 看護師

研究要旨

がん患者に対し、がん診断時や治療開始時におけるがん情報提供は不十分である。またがん情報を提供するがん相談支援センターの存在の周知も不十分である。その対策として、「がんと診断されたあなたに知ってほしいこと」の冊子を、医療者と患者がいつでも手に取れるように配置を工夫した。がん患者の入院説明時、入院説明者とがん相談員が連携し、入院説明後にごん相談員が直接がん患者へ挨拶し紹介カードの配布を実施した。院内の医療者への周知のため、電子カルテの院内掲示板で広報、医師・医療者向けチラシの配布、職員院内研修の実施、研修内容を院内研修システムにデジタルコンテンツとして掲載した。その結果、医師も患者も、がん相談支援センターの存在を認識することにつながり、がん相談件数の増加につながった。山形県には当院の他に、がん診療拠点病院や山形県がん総合相談支援センターがある。定期的に情報の共有や課題の抽出・解決など意見交換会を行っている。またがん教育総合支援事業、山形県がん診療連携協議会など外部団体との連携を行い、がん相談の認知度を高めることに努力している。人の集まる施設の利用は、院外広報の場として有効であった。

A. 研究目的

がん患者に対し、がん診断時や治療開始時におけるがん情報提供は不十分である。またがん情報を提供するがん相談支援センターの存在の周知も不十分である。確実ながん情報の提供やがん相談支援センター周知のため、様々な取り組みを行ってきた。その効果について報告する。

B. 研究方法

- ①2022年6月より「がんと診断されたあなたに知ってほしいこと」の冊子を院内の各部署に設置したが、利用促進を訴えてこなかった。2023年度からは、冊子を診察室の目につくところや、医師や患者がいつでも手に取れるように設置し、配布を積極的に呼びかけた。また院内の各部署にデジタルサイネージでの掲出を行った。介入の前後で冊子の配布数の変化を検討した。
- ②当院の入院説明は、緊急入院を除いて患者サポートセンターで入院説明をすることになっている。がん患者であった場合は、入院説明者とがん相談員が連携し、入院説明後にごん相談員が直接がん患者へ挨拶し紹介カードの配布を実施した。がん相談件数の変化、紹介カードの配布数、配布後直ぐに相談を受けた件数を検討した。
- ③院内職員へのごん相談支援センターの周知のため、

電子カルテの院内掲示板で広報、医師・医療者向けチラシの配布、職員院内研修の実施、研修内容を院内研修システムに、デジタルコンテンツとして掲載し、いつでも見られるようにした。その効果を、がん相談に来た患者より、どの情報源によりがん相談支援センターを知ったか、聞き取り調査した。

（倫理面への配慮）

特になし

人を対象としているが、個人情報扱っていない。

C. 研究結果

- ①2022年6月より冊子の配布を開始したが、月に20～90部程度であった。2023年度の介入後は月に110～150部に増加し、2023年度は1526部、2024年度は1671部であった。外来で約60%程度、サポートセンターで約30%が配布されていた。（表1）
- ②がん相談件数は、2022年度は570人、2023年度は817人、2024年度は823人であった。入院の説明時にごん患者にサポートセンターで紹介カードを配布した数は、2023年度110名、10.6%、2024年度は693名、25%であった。その場でがん相談を受けた患者は、2023年度45名、4.4%、2024年度156名、5.6%であった。（表2-1、表2-2）
- ③がん相談にきた患者に、このがん相談支援センタ

一をどこ知りましたかと聞き取り調査をしたところ、医師から聞いた、パンフレットで知ったとの答えが増加していた。(表3)

#### D. 考察

がん相談支援センターの院内や院外への周知は、がん相談における長年の懸案事項である。

がん患者に今後の事を知ってもらいたいと考えていたが、良い冊子が見つからなかった。2022年2月に国立がん研究センターより「がんと診断されたあなたに知ってほしいこと」が発刊された。当院では2022年6月から導入を開始した。しかし、院内の各部署に配布・配置しただけでは、利用促進には至らなかった。そこで患者や医療者の目につくところに配置を変更し、待合室でデジタルサイネージを行った。その結果患者や医療者の気づきに繋がり、2023年度は飛躍的に配布数が増加した。2024年度もその効果は持続している。患者に冊子を手にとってもらうには、何らかの工夫が必要と思われた。

当院は入退院に関する説明は患者サポートセンターで行っている。患者サポートセンターには、がん相談を含め、全ての相談部署が集約されている。患者はがんと知られることなく相談することができるメリットがある。入院説明者の連携により、がん相談に来たわけではなくとも、がん相談員が積極的に紹介カードを渡してあいさつをしている。顔の見える関係を構築する事は、非常に重要だと考える。様々な要因でがん相談は増加しているが、この取り組みも増加の一つの要因と判断する。

パンフレットや研修会の開催により、医師のがん相談に関する認知度もアップしているように思える。院内対策としては、何か一つの取り組みで劇的に改善するわけではなく、複合的な取り組みが重要である。当院のような大規模病院では年度初めの職員移動が多く、経年的な周知対策が重要である。

当院は都道府県がん診療拠点病院であり、がん相談部会のリーダー的役割を担っている。部会は6つの地域がん診療連携拠点病院と病院ではないがん総合相談支援センターで構成されている。連携の仕組みを持っており、定期的に意見交換会を行っている。また様々な外部団体との連携の取り組みを紹介する。

＜がん診療連携拠点病院・がん総合相談支援センターの意見交換会＞

2023年度のがん診療連携拠点病院の指定要件の変更により、様々な課題に対して、全県を挙げて対応するために開催を決定した。Zoomを用いた多施設での合同会議で、年に4回程度が開催目標。施設間の横のつながりを強化・活性化することが目的で、気軽な意見交換会を目指している。各施設から挙げた提案議題について進捗や情報共有を実施している。がん相談後の患者へのアンケートは、この会議で検討され、県統一のアンケートが作成で

きた。またある病院では、患者・ご家族のために、図書コーナーを設け、がんに関する医学書、体験記や小説などを置いて「相談窓口」で貸し出しを行っている事など紹介された。

(資料4)

＜山形県がん総合相談支援センター＞

2017年1月、県委託先として、やまがた健康推進機構(検診センター5か所)内に、病院外で「気軽に相談できる窓口」として発足した。意見交換会に実務者として入っていただき、拠点病院同様にスキルアップを図っている。がん相談だけでなく、ピアサポーターの養成および活動支援を行っている。ピアサポーターの活動場所の提供としてセンター内でサロンの実施や拠点病院へピアサポーターを派遣している。がん診療拠点病院での、ピアサポーターの養成の負担軽減ができています。病院はがん相談業務に専念でき、非常にメリットが大きい。今後連携強化を図っていく。(資料5)

＜山形県がん教育総合支援事業(がん教育)への学外講師の派遣＞

2020年度からがん教育が開始されている。がんに対する専門知識をもった学外講師の授業は、教育の現場では必要不可欠となっている。山形県がん診療連携協議会では、2023年度に学外講師の派遣リストの作成に協力し、教育現場の要望に答えることができる様にした。2023年度は講師数20名であったが、2024年度は42名まで増加している。各病院のがん相談センターのメンバーが数多く参加している。教育の現場にでもがん相談を紹介している。

＜がん診療拠点病院としての院外広報＞

ポスター・チラシの配布。がんサロン、院外研修会内での広報やがん情報ギフト置いている図書館への訪問を行い、各施設との垣根を低くすることに尽力している。2024年度は県立図書館で1か月間、企画展示として書籍紹介を行った(写真1)

県立図書館からは、展示だけではなく研修会等を企画し連携したいとの申し入れがあり、今年度がん総合相談支援センターと連携して企画中である。

#### E. 結論

がん診断時等にごん診療施設で効果的に情報提供するためには、院内の医療者(特に医師)にごん相談センターの存在・意義を理解してもらう必要がある。また、患者にはがん診療連携拠点病院にはがん相談センターがあり、誰でも、いつでも、治療以外の様々な相談にも応じてくれることを周知する必要がある。今後のがんの動向を考えれば、患者にだけの情報提供では不十分であり、支える家族や教育の現場、さらに住民の方々にもがん相談支援センターの存在を周知していく必要がある。今回の様々な取り組みは、がん情報提供するのに有効であった。

#### F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

(予定を含む)

1. 特許取得

2. 実用新案登録

3. その他



## 資料4

### 2024年度 意見交換会の概要

#### 第1回意見交換会の概要 令和6年5月28日（火）

- 「事例検討会」の開催方法について
- 就労支援が必要な患者の把握について
- ウィッグ・補正下着等の相談会の開催状況について
- がんサロンの参加者が増えない件について
- がん啓発月間のイベント計画について

#### 第2回意見交換会（事例検討会）の概要 令和6年10月3日（木）

- 事例検討会開催について
- 障害年金に係る情報提供について
- メール相談について
- ウィッグ・補正下着等の助成金申請者から、市町村の窓口担当者が男性だと相談しづらいなど

#### 第3回意見交換会の概要 令和7年1月27日（月）

- 企業側との連携について（企業側の理解がないことについて）
- 支援を要する患者すべての把握は困難であることについて
- 患者が仕事を辞めてしまうことについて
- 患者向けの就労支援に関する研修の参加者を増やすためには
- 就労支援がうまくいった事例
- 就労支援に係る今後の対応を決定
  - **労働局**には、企業を対象とした労働基準監督署（労働基準協会）の研修会でがん相談支援センターの周知を継続していただくほか、企業向けの両立支援の研修の機会を調整していただく。
  - **産保センター**においては、引き続き患者と企業とのやり取りをサポートしていただくともに、主催の研修会においてがん相談支援センターの周知を行っていただく。
  - 上記研修会においては、ポスターや県の「がんサポートハンドブック」を活用するほか、可能であれば部会からも出向いて両立支援についての説明を行う。

#### 第4回意見交換会の概要 令和7年3月17日（月）

- 山形県がん診療連携協議会の報告
  - がん患者相談室部会 R6 活動報告・R7 活動計画について
  - 患者会及びピアサポーターからのご意見
- 次年度の研修・広報WGの組み替えについて
- やまがたがんサポートハンドブックの改定について

以上、令和6年度は4回の意見交換会を行った。

## 資料5

### 令和6年度 山形県がん総合相談支援センター事業実績

#### I 相談業務実績

1. 電話及び来所による面談での相談対応を基本とし、相談内容によっては専門家の情報提供を行った

ア 窓口相談及び電話相談 ※令和6年4月1日～令和7年3月31日の件数

相談の種類	山形C	庄内C	最上C	米沢C	南陽C	合計
窓口相談	17件	3件	0件	2件	9件	31件
電話相談	142件	14件	17件	6件	3件	182件
合計	159件	17件	17件	8件	12件	213件

イ 出張相談

出張先		相談件数
9月28日～29日	イオンモール天童（やまがた健康フェア）	24件
10月12日	イオン三川店（いきいき健康フェア）	3件

ウ 専門相談

・センター主催

開催月	開催場所	専門相談員（職種）	相談件数
4月	山形検診センター	両立支援促進員（社会保険労務士）	1件

・各がん診療連携拠点・指定病院への専門家の派遣 0件

ア+イ+ウ= 241件

2. センター周知・広報

- ・リーフレット7,300枚（配布5月～3月）（健康フェア、健康祭り等での配布含む）
- ・健診受診後の説明冊子に相談窓口情報掲載（全センター4月～3月）215,000部
- ・ピア・サポーター養成講座ポスター100枚、チラシ3,000枚（配布5月～6月）
- ・フリーマガジン（gatta!10月号）1回、地域情報誌（あづま～る1月号）1回、庄内コミュニティーしんぶん（2月21日）1回、山形新聞スウィング（2月15日、2月27日）2回掲載
- ・市町村報掲載 24市町村（山形市、天童市、東根市、南陽市、中山町、山辺町、村山市、大石田町、尾花沢市、長井市、米沢市、白鷹町、飯豊町、小国町、酒田市、遊佐町、三川町、庄内町、新庄市、戸沢村、大蔵村、鮭川村、最上町、真室川町）

計 56回

- ・ホームページ9回更新
- ・ピア・サポーターの活動状況をまとめたピア・サポート便り「クローバー」を年2回発行し、ピア・サポーターへの配布と情報誌として関係機関へ提供
- ・山形県がん診療連携協議会 がん患者相談室部会 広報WGと共に、がんサポートハンドブック改訂作業を実施
- ・他検診機関や市町（河北町、三川町、鶴岡市）を訪問（がん相談支援センターについての普及啓発）

相談件数の内訳

( R6.4月1日～R7.3月31日 )

		件数		件数							
1	相談日時	a)月	4月	30	5月	17					
			6月	14	7月	19					
			8月	10	9月	46					
			10月	25	11月	23					
			12月	11	1月	15					
			2月	12	3月	18					
			b)曜日	月曜日	37	火曜日	43				
	水曜日	39		木曜日	45						
	金曜日	47		土曜日(日曜日も含む)	29						
	c)時間	午前(10時～12時)	106	12時～13時	21						
午後(13時～16時)		104	16時台	9							
2	対応者	山形	183	庄内	20						
		最上	17	米沢	8						
		南陽	12								
3	相談方法	電話相談	182	窓口相談(予約あり・なし)	31						
		出張相談	27								
4	相談時間	15分未満	131	15～30分未満	58						
		30分～1時間	35	1時間以上	16						
5	患者受診状況	入院中	7	通院中	148						
		受診医療機関なし	55	不明	3						
		その他(非がん通院、他)	27								
6	相談者	a)カテゴリー	本人(付き添いあり・なし)	183	家族・親戚	52					
			知人・友人	1	その他	4					
	b)性別	男	72	女	168						
							c)年齢	20歳未満	0	20歳台	1
								30歳台	23	40歳台	48
								50歳台	44	60歳台	51
								70歳以上	42	年齢不明	31
	d)利用回数	初めて	162	2回以上	78						
	e)居住地区	村山地区	160	庄内地区	24						
		最上地区	18	置賜地区	38						
7	相談内容	a)医療情報	がんの治療・検査	11	がんの症状・副作用・後遺症	23					
		b)日常生活	医療費・生活費・社会保障制度	18	社会生活(人間関係・仕事・学業等)	2					
		c)療養上の問題	不安・精神面の問題	112	在宅医療	2					
			食事・服薬・入浴・運動・外出	11	介護・看護・養育について	1					
			補完代替療法	2	医療者等との関係	17					
			患者・家族等関係	10	友人・知人・職場の人間関係	3					
			d)医療関連情報	施設の情報・紹介・転院	29	がん予防・検診	23				
			緩和ケア・ホスピスケア	2	セカンドオピニオン	6					
		e)その他	患者会(ピア情報・ピアサポート)	13	その他(相談方法、他)	2					
		8	対応内容	傾聴・語りの促進	183	助言・提案	195				
情報提供	109			専門機関などへの連携	5						
その他(面談予約、他)	1			※情報提供:本人の同意確認(済・未)							
9	相談者の反応	良い反応	238	反応なし	0						
		悪い反応	0	判断不明	2						
		その他( )	0								
10	相談経路	広報(コミュニティ新聞、他)	7	ポスター・パンフレット・機関紙	40						
		インターネット・HP	52	検診センター窓口・検診会場	52						
		医療機関(病院・介護施設)	24	友人・知人	6						
		その他(市役所、他)	43	不明	16						

## II ピア・サポーターの養成及び活動支援

1. ピア・サポーター養成講座 講師：山形県がん総合相談支援センター 松田 芳美 氏

8月25日（日）山形検診センター 11名養成

9月8日（日）最上検診センター 5名養成

2. ピア・サポーター研修

### 第1回 ピア・サポーター研修会（スキルアップ研修）

7月28日（日）山形市保健所 参加者：15名

・講演：「ピア・サポーターのコミュニケーションについて」

講師：日本看護協会認定 精神看護専門看護師 リエゾン精神看護師

川名 典子 氏

### 第2回 ピア・サポーター研修会（交流会）

11月10日（日）山形県産業創造支援センター、庄内検診センター

参加者：29名

・講演：「山形県がん診療連携協議会の取り組みと  
ピア・サポーターに期待すること」

講師：山形県立中央病院 総務課 がん・生活習慣病対策係  
がん・生活習慣病対策係長（山形県がん診療連携協議会事務局）  
小座間 優華理 氏

・各拠点病院がんサロンでの活動について  
～ピア・サポーターの活用と今後期待すること～

講師：山形県立新庄病院 医事相談課 がん相談支援センター  
相談員 佐々木 優 氏  
講師：日本海総合病院 医事課 医療福祉センター  
主任医療福祉相談員 佐藤 望 氏

・ピア・サポーターによる活動報告 「びあ〜の shinjo」、島藤 諭完 様  
・ランチョン交流会、情報交換など

3. ピア・サポート活動場所の提供

・がんサロン「クローバー」 ( ) 内はピア・サポーター数

開催日	会場・内容など	参加者数
5月22日	山形検診センター：クローバーサロン 庄内検診センター：クローバーサロン	6 (3) 名 2 (2) 名
6月22日	山形検診センター：がん遺族サロン 庄内検診センター：クローバーサロン	6 (5) 名 6 (4) 名
7月22日	最上検診センター：クローバーサロン	9 (5) 名
8月22日	米沢検診センター：クローバーサロン	5 (1) 名
9月22日	やまぎん県民ホール：出張がんサロン 庄内検診センター：クローバーサロン	7 (2) 名 6 (4) 名
10月22日	南陽検診センター：クローバーサロン	6 (4) 名

11月22日	山形検診センター：男のがんサロン	4(3)名
	庄内検診センター：クローバーサロン	4(1)名
12月22日	山形検診センター：外見ケアセミナー	7(6)名
	庄内検診センター：クローバーサロン	5(3)名

・拠点病院開催のがんサロン

ピア・サポーター派遣人数（※一般参加のピア・サポーターは除く）

県立中央病院「ひだまりカフェ」

開催日	4月12日	5月10日	6月7日	7月12日	8月9日	9月13日
派遣人数	2名	1名	2名	2名	2名	2名
開催日	10月11日	11月8日	12月13日	1月10日	2月7日	3月7日
派遣人数	2名	2名	2名	1名	1名	2名

県立新庄病院「晴れ晴れ」

5月28日（1名）、10月1日（4名）、12月17日（4名）、2月4日（3名）

公立置賜総合病院「がんサロン」

8月30日（2名）、11月6日（2名）、1月24日（1名）

日本海総合病院「まなびあい」

3月5日（5名）

### Ⅲその他

1. 相談員のスキルアップ

- ・がん相談支援センター相談員基礎研修（1）（2）知識確認コース 3名受講
- ・日本緩和医療学会学術大会 日本サイコオンコロジー学会総会合同学術大会 1名参加
- ・日本緩和医療学会東北支部学術大会 2名参加
- ・地域相談支援フォーラム in 秋田 5名参加
- ・がんサポートグループ企画・運営者のための研修会 1名参加
- ・日本がん看護学会学術集会 5名参加
- ・年2回がん相談員自己評価表記入（9月・2月）
- ・がん相談員内部研修会 対応困難事例の共有（ロールプレイを通して振り返り）

2. カンファレンス

- ・毎月最終週の水曜日 所長カンファレンス実施（全センター相談員参加）

3. アドバイザリーボード会議

構成メンバーは、都道府県がん診療連携拠点病院、患者会、ピア・サポーター、機構職員等とし、センター事業運営についてご意見をいただく

写真1.

